

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 3 月 7 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201344		
法人名	Gトラスト		
事業所名	グループホーム 令和の杜		
所在地	広島市西区井口鈴が台3丁目16-26 電話 082-942-1600		
自己評価作成日	令和4年1月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3490201344-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 7 日 (月)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

令和元年11月に開設し、3年目に入りました。月日の経つのは速いもので、空地だった鈴が峰女子大跡にも新築住宅が建っています。コロナの影響で運営推進会議でも顔を合わす事が出来ませんが、町内会の掃除等には参加し、可愛がられる事業所を目指しています。又毎日の体操や適宜のレクリエーションで入居者様の体力の維持や、活力が保てるように考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム 令和の杜は、職員は、コロナ禍にあっても、閉塞感を感じさせないように、利用者一人ひとりの「～したい」事に合わせて、日頃から利用者の思いを尊重され、利用者の立場に立った対応を心がけており、活躍出来る場面作りや楽しみ毎の支援に取り組み、利用者が毎日を楽しく、その人らしく暮らせるように支援している。管理者やリーダーを中心に、職員一人ひとりのサービス向上への意欲は高く、常に自らのケア目標を持って取り組んでおり、ミーティングの中でも改めて理念を振り返りながら、適切な対応について話し合っている。家族や本人から昔の暮らしぶりや得意な事、好きな事を聞き取り、日々利用者に関わる中で、その人の行動の裏にある思いを汲み取り、思いや意向の把握に努めている。職員同士が意見を言い易い環境にあり、お互いの意見を取り入れて、働きやすい職場作りを進めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝のミーティングで、企業理念である「使命感・責任感・帰属意識」の唱和、又事業所の理念の「信頼関係を築こう」や夜勤時に介護において心がける事として「暴言・暴力的な介護は行わない」「全ての人の尊厳を守る」をグループ内で共有し、実践に繋げている。	企業理念である「使命感・責任感・帰属意識」、事業所理念「信頼関係を築こう」を、朝の申し送り時に唱和している。日々の業務の中でも、折に触れて理念を確認して共有し、利用者が求めている今、その時々支援し、生き生きとした表情や姿が見られるかを話し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの関係で、外に出る事は出来ていないが、窓から通学する小学生や中学生をみて挨拶をする等して交流している。	町内会に加入していて、地域の情報は、町内会の回覧板から把握している。利用者は、地域の祭りに参加して来たが、コロナ禍の為、すべて中止となっている。周辺の散歩時に出会う近所の人と、挨拶を交わして交流している。隣家とは、花壇を見せて頂いたりして、良く交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方に事業所に入って頂く事は出来ていないが、コロナが空けたら、地域の方を招いて認知症の勉強会をする計画をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	最近の運営推進会議は書面で行っている。地域包括の方から、より具体的な質問や意見もfaxで頂き、業務の振り返りに役立てて頂いている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員・民生委員・住民代表・家族・福祉用具業者が参加して開催していたが、2ヶ月に1回、文書による開催している。利用者の状況や活動内容、行事報告、ヒヤリハット報告、職員の研修状況、委員会報告、楽々苑通信等を送付し、毎回、「意見用紙」を同封して、メンバーから意見や要望を聞き、自主開催して、会議録を参加者に送付している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	生活保護の方や、保護観察官がついておられる方が入居されており、市の担当者様と密に連絡をとっています。	市担当者とは、運営推進会議の記録を持参したり、電話、や直接出向く等して、情報交換や申請手続き、運営上の疑義について相談を行い、助言を得る等、協力関係を築くように取組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の電話連絡をしたり、情報交換を行い連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を年2回・委員会は3か月に1回行っている。研修は繰り返し、指針に基づき事例等を検討材料に行っている。玄関の施錠は行っていない。新入職員には指針を渡し研修を行っている。	職員は「身体拘束適正化のための指針」を基に、研修で学んでいる他、3ヶ月毎に開催している「身体的拘束適正化委員会」を通して、身体拘束、虐待の内容や弊害について、正しく理解している。スピーチロックやドロック、フィジカルロックについては、職員間で注意し合っている。玄関は施錠をしないで、外出したい利用者とは、職員と一緒に周辺の散歩に出かけたりして、気分転換を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様、事例を元に研修を繰り返している。		

グループホーム 令和の社

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。</p>	<p>当事業所の重要事項説明書にある、権利擁護について改めて職員で理解し、学ぶ機会をもっている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に説明をさせて頂き、同意書を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>管理者とご家族様は直接メールや電話で話ができる状況になっており、入居者様については、職員と管理者で連携をとり意見を聴ける状況にある。伺った意見については、家族に報告したり、ミーティングで運営に反映させている。</p>	<p>家族からは、窓越し面会時や電話、メール、手紙等で意見や要望を聞いている。意見や要望は「申し送りノート」に記録して、職員間で共有している。毎月、事業所便りと利用者を担当している職員による近況報告を送付し、面会時には、管理者の方から言葉をかけて、利用者の日頃の様子を話し、家族が気軽に話せる雰囲気作りに努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングで話を聴いたり、個別に話を聴いたりしている。管理者は運営に反映している。</p>	<p>管理者、ユニットリーダーは、ミーティング時、申し送り、カンファレンス時、日常業務の中で職員の意見や提案、要望を聞いている。日頃から管理者の方から言葉をかけて、職員が意見を言い易い雰囲気作りに努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個々の評価を定期的に行っている。職場環境・条件面での職場の思いを反映出来るように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>OJTで職員教育を行っている。介護福祉士が多く、内部研修は月に1回は行い、日々研修する事が出来る環境になっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>グループ企業であり、管理者は月に1回は集まったり、オンラインで、勉強会をする機会があるが、各事業所の訪問は出来ていない。</p>		

グループホーム 令和の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居されて1か月は、様子見の期間だと位置づけ、ご本人様の意向を汲み、安心して過ごして頂けるように、関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の段階で、要望等をしっかり把握し、職員全体が理解し介助に当たれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お困りごとを把握し、必要なサービスを提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩である入居者様には、教えて頂く事が沢山あり、貴重な体験も聞かせて頂いたりしている。そういう面ではお互いに影響し合う対等な立場だと理解している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様とは、事あるごとに連絡を取り合い、ご本人様の現在がわかるようにお話をさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナ禍で外出や面会に制限があるが、以前は、家族と出かけたり、近所の方が遊びに来られていたが、現在は出ていない。	面会制限のある中でも、家族との短時間の面会を工夫し、電話や手紙、オンライン面会での交流を支援している。地域から月1回、美容師の来訪があり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように工夫して支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士は、認知能力に差がある事で、労りもあるが蔑みもある。職員は介在する事で、関係が円滑になるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方のご家族に手紙等で近況を聴いたり、お困りごとを聴いたりして相談にのっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、または生活していく中で、ご本人と話をしご本人が望む暮らし方を一緒に考えている。それをケアプランに反映出来るように検討している。	入居時に本人、家族から生活歴や暮らし方の意向等を聞き取りしている。日々の関わりの中での利用者の言葉や表情、生活状況等を、支援経過や業務日誌に記録して、職員間で共有し、本人の思いや意向を把握している。困難な場合は、利用者の顔の表情からくみ取ったり、家族から情報を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の聞き取りの中で、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日課表を作成し、個人で必要な介助を明記する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日頃の様子や気づきを業務日誌や個人ファイルに記録し、月に1回、職員でミーティングを行い、必要なら、訪問看護や医師と話をし、本人にも聞き取りを行い介護計画に反映するようにしている。	計画作成担当者と、利用者を担当している職員を中心に、毎月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医、訪問看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。利用者の課題や改善項目、職員の意見等を詳細に「業務日誌」に記録して、共有出来る様に工夫している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、その都度、介護計画を見直している。利用者の状態や家族の要望があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の業務日誌に記入したり、個人支援経過に記入し職員間で情報を共有し短期目標に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の状態に必要なサービスを提供するが、現在のコロナ禍において、中々サービスの多機能化は難しい状況だが、特定疾病の方の入居に伴い、歩行訓練等で、外部の機能訓練士の介入等の取り組みをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の民生委員さんが、ボランティア活動の申し出をされているが、コロナ禍の中、実現出来ていない。貴重な地域資源として取り組ませて頂きたい。		

グループホーム 令和の社

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月2回のかかりつけ医による往診と訪問看護による週1回の訪問、適宜の訪問歯科の往診、又訪問薬局による配薬で医療・看護・介護が連携を取って適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている他、週1回、訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理を行っている。他科受診は、家族の協力を得て、又は、職員が受診支援をしている。歯科は月1回、訪問診療があり、処置が必要な人は随時、治療を受けている。受診結果は「業務日誌」に記録して、職員間で共有し、家族には電話や面会時に報告をしている。24時間オンコール体制であり、訪問看護師や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携ノートがあり、各人の様子等を記入している。訪問看護が週1で医療連携に来ているが、その時にノートを見せ相談し、必要であれば、医師に繋いでもらうようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院の医療連携室やご家族に随時連絡をとり、現状把握をおこなっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に「重度化・終末期対応指針」を説明している。また入居時にもしもの時の医療的ケアはどこまで必要かとの話をする。看取りになる時は、看取りの説明を行い、医師による説明に納得して頂けたら、同意書にサインして頂き、チームで支援させて頂く。</p>	<p>入居時に「重度化・終末期対応指針」に基づき、事業所のできる対応について、家族に説明して同意を得ている。実際に重度化した場合は、家族、主治医、看護師、職員で話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて、方針を決めて共有し、看取りを行う場合は、同意を得て、チームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>研修は常に行っているが、実践については、関わった職員は他の職員に指導する等し、スキルアップに努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練を年2回実施している。先日は実際に出火を想定し、利用者様に避難の訓練をして頂いた。車いすの利用者様の避難を段階で行う事は出来ていない。課題である。近隣住民とは協力体制が出来ているが、地域住民も高齢化しており、難しいと思われる。</p>	<p>年2回、事業所のみで、火災の通報・避難・消火訓練を利用者も参加して行っている。台風や大雨等災害が予測される場合は、災害マニュアルを下に、事前に対応策を見直して、備えている。今回はコロナ禍で消防署や地域の協力は得られなかったが、地域との協力体制(町内会・民生委員)は築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員の心がけとして「暴言暴力的な介護は行わない」「全ての人の尊厳を守る」という合言葉がある。職員はそのような介護を心がけている。	職員は内部研修で学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応が見られた時には、職員同士で注意する他、管理者が助言、指導している。記録類等個人情報の取り扱いに留意すると共に、守秘義務についても遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけご本人が意思決定出来るように、ご本人が話せるようにじっくり待つ姿勢を保ち、本人が難しい場合は職員が分かりやすく説明する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを大事にしている。がその日の過ごし方については、特別な事がないと本人確認はしていない。会話の中で希望に沿うように支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自宅で愛用されていた衣服等を持参して頂き、日中と夜間で着替えて、気分転換をしたり、おしゃれをして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お盆に小鉢などを並べるお手伝いをされたり、食後はテーブルを拭く、お盆を拭く等のお手伝いをして頂いている。	3食とも外食業者を利用して、ご飯と汁物は事業所で作って提供している。利用者は、下膳、テーブル拭き、食器拭き等、出来る事を職員と一緒にしている。キザミやミキサー等、食事形態にも配慮している。季節の行事食(おせち、敬老の日、節句、チラシ寿司等)を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分は好みや、飲みやすい物を一人一人に合わせて提供している。(例 お茶より水が飲みやすい。温かいのが好きな方。冷たいのが好きな方。)又その方に合わせて食べやすくカットする。声掛けにてバランスよく食べられるように声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛けにて口腔ケアを実施。なるべくご自身で歯磨きして頂き、仕上げはスタッフが介助する。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレの時間が空いているときや、食事の前などは声掛けを行いトイレに行きやすい環境を作っている。車いすの方でも、立位を取ってもらいトイレで排泄出来るように支援している。	排泄チェック表を活用して、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘が続いている利用者に対しては、水分摂取を促したり、薬で調整したりして、出来るだけ自然排便が出来るよう取り組んでいる。	

グループホーム 令和の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の状況などを把握し医師の指示のもと下剤等を処方して頂き素早く対応している。又一日の水分接種目標を1000ccとし、取って頂けるように、工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人一人の出来ることを把握し、声掛けにより洗体、洗髪をして頂いている。又季節によりゆず湯等を提供し楽しんで頂く工夫を行っている。入浴が好きではない方には、職員を交代したり声掛けを変えたりして入って頂くように支援している。	入浴は、利用者の希望や体調に合わせて、週2回入浴出来るよう支援している。季節の柚子湯を使用する等で気分転換をしたり、利用者の状態に応じて、リフト浴やシャワー浴、清拭や足浴を行っている。入浴したくない利用者には、タイミングをずらしたり、声かけの工夫をして対応している。職員とゆっくり会話を楽しむ等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食後には昼寝の時間を設け、ベッドに臥床して身体を休める声掛けをしている。又、夜間は今までの生活スタイルを家族様に聞き、臥床する時間を考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報等医師、訪看等と共有できるようにノートへ記録し、変化なども詳しく記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	3か月に1度は美容室が来られ、カットやカラーなどをして頂き、皆様さっぱり、すっきりされ素敵な笑顔になる。洗濯もの畳みやテーブル拭きを積極的にされ、職員に「他にすることは無い？」と手伝われる姿がみられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナ禍であり、外出も出来ないが、必要な通院介助は同行している。	コロナ禍以前は、出来るだけ利用者の希望に沿えるように、短時間であっても外出の機会を設けていたが、現在は、利用者の安全を第一に考え、必要な受診以外の外出は控えている。事業所周辺の散歩や、隣の家の花壇を見に行ったりして、外気浴、日光浴を行い、季節を感じる取り組みをして、気分転換を図れるよう、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当事業所は、お金の持ち込みを遠慮して頂いており、ご家族と外出される時に使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望に沿ってご家族へ電話したり伝言を受け取ったり出来るよう支援している。		

グループホーム 令和の社

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間で過ごされる事が多く、皆さんで作った貼り絵を飾って楽しまれている。又、季節の花を飾って心地良い空間を心がけている。	玄関には季節の飾りや花が飾っている。リビングは広く、大きな窓からは陽ざしが差し込んで明るく、食卓、イスを配置し、テレビの前にはソファが置いてあり、利用者が思い思いの場所でゆったりと過ごす事が出来る。リビングの壁には、利用者と職員が作った季節の飾りや、カレンダー等を飾っている。オープンキッチンからは、調理の音や匂いがして、生活感を感じる事が出来る。温度や湿度、換気に配慮して、居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	円卓の周りでは、話をしたりお茶を飲んだりと他者と関わる事をされている。一方一人になりたい方は、少し離れた所に椅子があり、そこに腰掛け遠くから他者を見たりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居時になるべく今まで暮らして来られた部屋に近い配置を心がけている。ぬいぐるみや家族の写真などを置きいごち良く過ごされている。	テレビ、ラジオ、タンス、ソファ、机、イス、ハンガーラック、衣装ケース、雑誌、新聞、本、スケッチブック、歌本、三味線、化粧品、人形、ぬいぐるみ等自宅で使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族の写真、職員からの誕生日会写真・プレゼント等を飾って、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員と共に、個々ができる事（洗濯物干し・たたみ・テーブル拭き・フロアのモップかけ・リネンのセット等）をして頂き、評価する事により、社会参加の喜びを感じて頂いている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 令和の杜

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 令和の杜

作成日 令和 4年 3月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	身体的介護負担が大きくなっており、介護職員の高齢化で、腰の痛みの訴え等が大きくなっている。	常勤の介護職員を1名増員する	・ハローワーク ・職員の紹介 ・介護ジョブ等の紹介で増やす 又、離職率の減少	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 令和の杜

作成日 令和 4年 3月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	認知症の周辺症状や鬱等の精神症状が顕著になってこられている。対応に苦慮する。	職員の理解を促す。 常勤の介護職員を1名増員する	認知症の研修を繰り返し、理解を促す ・ハローワーク ・職員の紹介 ・介護ジョブ等の紹介で増やす 又、離職率の減少	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。